# 情報計測学基礎1レポート

中京大学大学院 工学研究科 機械システム工学専攻 T11708M 柴田浩史

目次														
I	パッケージの導入	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	• P2-P3
Π	USB カメラの導入	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	• P4
Ш	オプティカルフロー概要	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	• P4-P7
IV	オプティカルフロー 動作結果	•		•				•			•			• P7-P9

#### 【はじめに】

本授業では物体追跡プログラムの基盤となるオプティカルフローのプログラムを作製した。このレポートではパッケージ導入、USBカメラへの接続、オプティカルフロー概要といった流れで行ったことを説明する。

## 【 I パッケージ導入】

まず、下記のコマンドをターミナルに順に入力することで、ワークスペースを作製する。

- ① \$ mkdir -p my\_robot/src //ディレクトリの作製
- ② \$ cd my robo/src //移動
- ③ **\$ catkin\_init\_workspace**// ワークスペース (src フォルダにパッケージが無く、ただ CMakeList.txt のリンクがあるだけ) の作製

次に作製したワークスペースでパッケージを作製し、プログラムを修正する。

- ④ \$catkin\_create\_pkg my\_opencv sensor\_msgs cv\_bridge roscpp std\_msgs image\_transport // パッケージの作製
- ⑤ \$cd my\_opencv/src//移動
- ⑥ \$gedit optical\_flow.cpp//プログラム作製
- ⑦ \$cd..//移動
- ⑨ \$cd..//移動
- ① \$ catkin make //ビルドする

修正した CMakeList を図 1 に表す。赤枠で囲った 140 行目と 154 行目を変更した。オプティカルフローのプログラムは「 $\mathbb{II}$  オプティカルフロー概要」を行う。

```
🔊 🖨 📵 File Edit View Search Tools Documents Help
 Open ▼
                                                                                 Save
   ${Catkin_EXPURIED TARGETS})
140 add executable(optical_flow src/optical_flow.cpp)##change
53 ##target link libraries(image converter ${catkin LIBRARIES
154 target link libraries(optical flow ${catkin LIBRARIES} )##change
55 ############
57 ############
      scripts/my_python_script
                              CMake ▼ Tab Width: 2 ▼ Ln 134, Col 1 ▼
```

Figure 1 CMakeList.txt の変更箇所

#### 【IIUSB カメラへの接続】

まず、USBカメラのソフトをインストールするため下記のコマンドを入力する。

- ① \$ cd my\_robot/src //移動
- ② \$git clone <a href="https://github.com/ros-drivers/usb-cam">https://github.com/ros-drivers/usb-cam</a> //github から ROS で USB カメラを使えるソフトをインストールする.
- ③ \$cd .. //移動
- (4) \$ catkin make //ビルドする

次に USB カメラをポートに接続した後、ターミナルを 3 つ開く。それぞれのターミナルで my\_robot のディレクトリに移動し、 source devel/setup.bash を入力し、自分の作成したワークスペースをインストール環境に Overlay する。 Overlay とは主にプログラムが大きすぎてメインメモリに格納できないような場合に、プログラムを機能ごとに分割し、それぞれのセグメントをプログラム自身が管理、制御することである。

上記を行った後以下のコマンドを入力することで取得した画像がウィンドウに表示する。

- ⑤ \$ roscore //ロスを動かす (ノードとの間を通信する) …ターミナル 1
- (6) \$ rosrun usb cam usb cam node…ターミナル2
- (7) \$ rostopic // USBカメラに接続しているか確認する…ターミナル3
- **⑧** \$ \$rosrun my\_opencv optical\_flow//ノードを立ち上げる…ターミナル 3

#### 【Ⅲオプティカルフロー概要】

まず、オプティカルフローとは、物体の動きをベクトルで表すものである。今回作製したプログラムのサンプルは <a href="http://www.cellstat.net/opticalflow/">http://www.cellstat.net/opticalflow/</a>から取得した。検索ワードはオプティカルフロー opency c+で見つけることができる。また、作製したプログラムは Github の <a href="https://github.com/t11708m-chukyo/My1-strepository">https://github.com/t11708m-chukyo/My1-strepository</a> 内の  $src/my_o$  opency にオプティカルフローを動かすための CMakeLists.txt があり、そのさらに下の src に今回のプログラムである optical\_flow.cpp がある。

今回作製したプログラムは図 1,2 のようである。青枠で囲んである部分が新しく加えたコードである。Github の optical\_flow.cpp と同じ場所にある image\_converter.cpp が元のコードである。参考コードでは取得画像が source であるが、今回は gray に変更している。また参考コードの main 文を削除している。

```
#include <ros/ros.h>
#include image transport/image_transport.h>
#include composed in the provided in the
```

Figure 2 作製した optical\_flow.cpp

```
void imageCb(const sensor_msgs::ImageConstPtr& msg)
  cv_bridge::CvImagePtr cv_ptr;
    cv_ptr = cv_bridge::toCvCopy(msg, sensor_msgs::image_encodings::BGR8);
  catch (cv_bridge::Exception& e)
    ROS_ERROR("cv_bridge exception: %s", e.what());
  cv::cvtColor( cv_ptr->image, gray, CV_BGR2GRAY );//make an image monochrome
  image pub_.publish( cv_bridge::CvImage( std_msgs::Header(), "bgr8", gray).toImageMsg());
  if( frame_count == 0 ) gray2 = gray.clone();//exception handling
  if( frame_count > 0 )
    vector<cv::Point2f> prev_pts;//point
    Size flowSize(50,50);//interval between the flows
    Point2f center = cv::Point(gray.cols/2., gray.rows/2.);
for(int i=0; i<flowSize.width; ++i)</pre>
    {
  for(int j=0; j<flowSize.width; ++j)</pre>
      {
    Point2f p(i*float(gray.cols)/(flowSize.width-1), j*float(gray.rows)/(flowSize.height-1));
    prev_pts.push_back((p-center)*0.95f+center);//store a calculation result
    Mat flow;
    calcOpticalFlowFarneback(gray2, gray, flow, 0.8, 10, 15, 3, 5, 1.1, 0);
```

Figure 3 作製した optical\_flow.cpp

```
calcOpticalFlowFarneback(gray2, gray, flow, 0.8, 10, 15, 3, 5, 1.1, 0);

// オブティカルフローの表示
std::vector<cv::Point2f>::const_iterator p = prev_pts.begin();
for(; p!=prev_pts.end(); ++p)
{
     const cv::Point2f& fxy = flow.at<cv::Point2f>(p->y, p->x);
     double val_flow = flow.at<double>(p->y,p->x);
     double val_flow > 10.0) cv::line(disp, *p, *p+fxy*8, cv::Scalar(8),1);//designation of the sice in the sice
```

Figure 4 作製した optical\_flow.cpp

### 【IVオプティカルフロー 動作結果】

図 5、6 は flowsize(100,100)の結果であり、図 7、8 は flowsize(50,50)に示す。下図のように flowsize を変化させることでオプティカルフローの間隔を調整することができる。 flowsize(100,100)では物体自体がオプティカルフローの線で隠れて、flowsize(50,50)では物体自体は見やすくなった。今回の撮影ではカメラから画像に反映されるのに時間がかかってしまうため今後は処理速度が早い PC で行う必要がある。



Figure 4 オプティカルフロー結果①

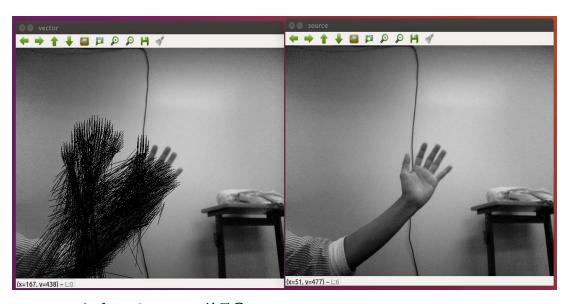


Figure6 オプティカルフロー結果②

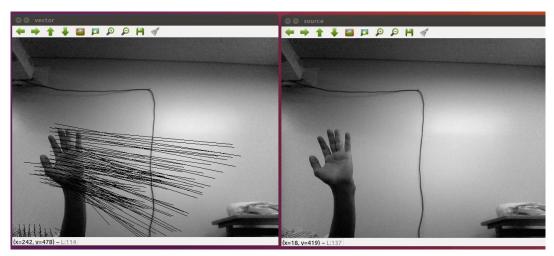


Figure 7 オプティカルフロー結果③

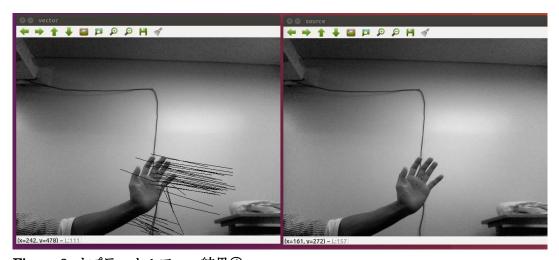


Figure 8 オプティカルフロー結果④